

## 第5回 森林・林業・木材産業への投資のあり方に関する検討会 議事概要

I 開催日時 令和4年5月18日（水）13時13分～15時10分

II 開催場所 農林水産省7階第3特別会議室

### III 検討会委員

|           |                                                    |
|-----------|----------------------------------------------------|
| ○龍原 哲     | 東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授                               |
| 安藤 範親     | 株式会社農林中金総合研究所 主事研究員                                |
| 宇都木 玄（欠席） | 国立研究開発法人 森林研究・整備機構<br>森林総合研究所 研究ディレクター（林業生産技術研究担当） |
| 大島 英彦     | 株式会社日本政策金融公庫 融資企画部副部長                              |
| 佐々木 太郎    | 全国森林組合連合会 参事                                       |
| 本郷 浩二     | 一般社団法人 全国木材組合連合会 副会長                               |
| 松本 晃      | 株式会社日本政策投資銀行 地域調査部参事役                              |
| 森澤 充世     | 一般社団法人 CDP Worldwide-Japan 理事、ディレクター               |

計8名 ○：座長

### IV 議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事
  - （1）中間とりまとめ（案）について
  - （2）意見交換
  - （3）その他（連絡事項等）
4. 閉会

### V 資料

#### 議事次第

|     |                                              |
|-----|----------------------------------------------|
| 資料1 | 出席者名簿                                        |
| 資料2 | カーボンニュートラルの実現等に資する森林等への投資に係るガイドライン中間とりまとめ（案） |

## VI 委員からの意見

### 資料2【カーボンニュートラルの実現等に資する森林等への投資に係るガイドライン中間とりまとめ（案）】に関する意見

- P23の「主伐・再造林の際の森林吸収量の考え方」について、主伐後の再造林に関して、将来の吸収量の回復を考慮してCO<sub>2</sub>排出量をゼロカウントとすることは、特徴があるまとめ方で良いと思う。また、カーボンニュートラルは全地球的な価値の中での議論。長い時間軸で考えるということに照らしても至当。
- COPにおけるCO<sub>2</sub>吸収効果の評価手法では、日本の森林のように持続的な森林経営管理は評価できない。今回の中間取りまとめがこれまでの評価手法の議論にくさびを打ち込み、これを起点に世界に議論を巻き起こすようなものとなって欲しい。
- 海外は森林減少が課題である一方で、日本の森林保全の状況は異なる。日本は持続可能な森林を考えていく中で、主伐・再造林を進めていかなければならない時にあるのだと思う。日本では、防災の観点からも寿命のきている木々に関して適切な時期に伐採して再造林ということを考えていくべきである。
- 図24の「※投資プロジェクトエリア内の間伐の効果は評価対象にしない。」と、P21の「間伐等…CO<sub>2</sub>吸収効果について評価することが可能である。」について、関係を明確にして記載して欲しい。
- 林業事業体におけるCO<sub>2</sub>排出量削減の評価についても今後を考えていきたい。
- 図24の「伐採木材の活用用途に伴うCO<sub>2</sub>貯蔵・排出削減量の評価」について、現場ではすぐ燃料利用に結びつくことになりかねない状況もあるなかで、カスケード利用をどう担保できるのか考えておく必要がある。
- 木質バイオマスについて、輸送時のCO<sub>2</sub>排出も計算することで、海外からの輸入バイオマスと日本国内のバイオマスと比較してはどうか。日本国内の森林資源利用の価値が見える化することを期待。
- 生物多様性保全は世界中で注目が高まっている。森林の価値として、生物多様性保全を組み込んだことは高く評価したい。
- 投資事例が増えてくることで、林業労働力や担い手に直結するような評価の考え方も出てくることを期待。
- P27以降で示した評価項目については、今後の深掘りを期待。林業の業態として、必ず注目して欲しいという、農業や水産業にはない特殊な項目があると思われるので、ぜひ現場の声を聞いてほしい。
- この中間取りまとめの内容を、世界と日本の森林の置かれている状況の違いも含めて、海外の投資家に発信していくため、中間とりまとめの英訳とともに、日本の森林・林業の魅力やポイント等をまとめた簡潔な資料の英訳資料も作成してはどうか。
- 森林等へ投資する側としては、グリーン性の担保と、収益性がハードルとなる。災害等によって計画が崩れてしまうリスクはあるものの、グリーン性の担保の仕方をここで示したことは非常に意義がある。一方で、収益性に関して、森林投資の経験がない投資家等にとっては、林業にはこういった特殊性があるのかを知りたい。また、通常の投資と同様に

10～20 年後のイグジット（EXIT）を見据えてリスクも考慮したガイドラインが今後には作成されていくことを期待。

- ケーススタディを含めた投資の可能性を分かりやすく紐解くガイドラインは理解を進めていく上で重要。また、雇用創出による地域活性化というインパクトも期待され、投資を地方に向ける機会であり、金融機関、メガバンクをはじめ地方銀行にも広めていっていただきたい。
- 林野庁においては、取りまとめの公表に対する様々な反響に対して、丁寧に対応してほしい。

（以上）